

2012年6月25日

「国際共同声明を読み込む講座」第2回
G8 キャンプデービットサミット (2012年)

1. 今回のテーマ

2つの異なる主張（二律背反、方向性の相違、立場・姿勢の強弱等）がある場合の妥協点の模索の仕方（その際の表現方法）。

2. 具体例（キャンプデービットにおける「世界経済」の取り上げ方）

(1) 背景

ア) 欧州経済の危機の深刻化（ギリシャ、スペイン、PIGS(PIIGS)）

イ) サルコジ仏大統領の再選失敗、オランダ新大統領の登場

ウ) 財政規律（再建）重視か経済成長重視か

(2) （これまでの）基本姿勢と各国の位置づけ（日、米、独、仏、伊、英）
リーマンショックの影響、「失われた〇〇年」

(3) 基本姿勢堅持か緩和（容認）姿勢か

(4) 過去のG8首脳宣言における世界経済の取り上げられ方

3. 課題

(1) 財政規律派の主張の箇所と経済成長派の主張の箇所に下線（色分け）

(2) 財政規律派の立場にたつと、どの部分のどのような言い方をより強化（強く主張）するか。その際の表現方法は（ドラフト）。[グループ1]

(3) 経済成長派の立場にたつと、どの部分のどのような言い方をより強化（強く主張）するか。その際の表現方法は（ドラフト）[グループ2]

(参考)

2011年ドーヴィルサミット文書（世界経済部分抜粋）